

# 高松市(中国・四国ブロック)

【2期 計画期間 25年6月～30年3月】

・天正16年(1588年)生駒親正が高松城を築き、生駒4代54年、松平11代220年を通じて城下町として栄えた。  
 ・廃藩置県後、香川県の県庁所在地となり、明治23年2月15日に市制を敷き、全国40番目の市として発展。  
 ・人口約42万人、面積約375km<sup>2</sup>(H25.4現在)。8つの商店街で中央商店街が形成され、長さ約2.7kmにも及ぶ。

## 【1期計画の概要】

○高松丸亀町商店街の再開発事業をリーディングプロジェクトとして位置付け、商業・サービスの活力強化を図るとともに、魅力的な空間の創造に取り組んだ。

## 【中心市街地の変化】

○1期計画では、丸亀町商店街の大規模再開発事業の効果によって、空き店舗率、歩行者通行量、定住人口の指標に一定の効果が現れた。

○しかし、商店街全域への波及効果は薄く、2期計画では丸亀町商店街の再開発事業の効果を、商店街全域に波及するよう現在不足している情報発信や居住者の買い物環境の機能充実、空き店舗を活用した共同住宅の整備等の事業を行う。



## 【目指す中心市街地像】

**一にぎわい・回遊性・豊かな暮らしのあるまちを目指して一**

## ■1期計画の目標

目標	指標	現況値(H18)	目標値(H24)	最新値(H24)
テナントミックス等による、商業・サービスの魅力強化と効果の波及	空き店舗率	18.1%	14.2%	16.6% (H24.6)
	年間商品販売額	104,984百万円	110,000百万円	79,644百万円
来街者の回遊促進	歩行者通行量 (休日)	119,844人	150,000人	121,286人 (H24.10)
魅力的な住宅供給による、居住促進	定住人口	20,385人	21,700人	20,671人 (H24.10)

## ■2期計画の目標

目標	指標	現況値(H24)	目標値(H29)
商店街独自の魅力あるサービスを創出する	空き店舗率	16.6%	14.9%
まちのあちこちで歩いている人を増やす	歩行者通行量 (休日)	131,878人	141,000人
中心市街地に、より住みやすい環境をつくる	市全体の人口に対する中心市街地の居住人口の割合	4.8%	5.1%

### ■商店街独自の魅力あるサービスを創出

⇒①高松南部商店街活性化事業、②高松丸亀町商店街回遊性向上事業、③商店街情報発信事業

### ■まちのあちこちで歩いている人を増やす

⇒④歩行者空間整備事業、⑤常磐町商店街アーケード整備事業、⑥レンタサイクル事業、⑦総合生鮮市場事業、①高松南部商店街活性化事業(再掲)、③商店街情報発信事業(再掲)

### ■中心市街地に、より住みやすい環境をつくる

⇒⑧高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業、⑦総合生鮮市場事業(再掲)

# 第2期高松市中心市街地活性化基本計画の事業概要

## 商店街独自の魅力あるサービスを創出

- ①高松南部商店街活性化事業  
田町「高齢者の安心・交流事業」、常磐町「子育てママサポート事業」、南新町「さめきの「味」育成事業」を各商店街の**空き店舗**を使って**実施**
- ②高松丸亀町商店街回遊性向上事業  
丸亀町商店街C街区に**渡り廊下**を設置
- ③商店街情報発信事業  
街並みの景観を損なわないよう、デザインコードに基づき、**街路灯**、**休憩スペース**、**リアルタイムな情報発信システム**を整備



連絡通路のイメージ図

## まちのあちこちで歩いている人を増やす

- ④歩行者空間整備事業  
サンポート高松と中央商店街の**相互の連携**や**回遊性を高める**歩道整備や照明の設置など歩行者ネットワーク等を整備
- ⑤常磐町商店街アーケード整備事業  
**アーケード葺き替え工事**を実施
- ⑥レンタサイクル事業
- ⑦総合生鮮市場事業  
新鮮な地産地消の生鮮食品を販売する**総合生鮮市場**を整備



情報発信のイメージ図

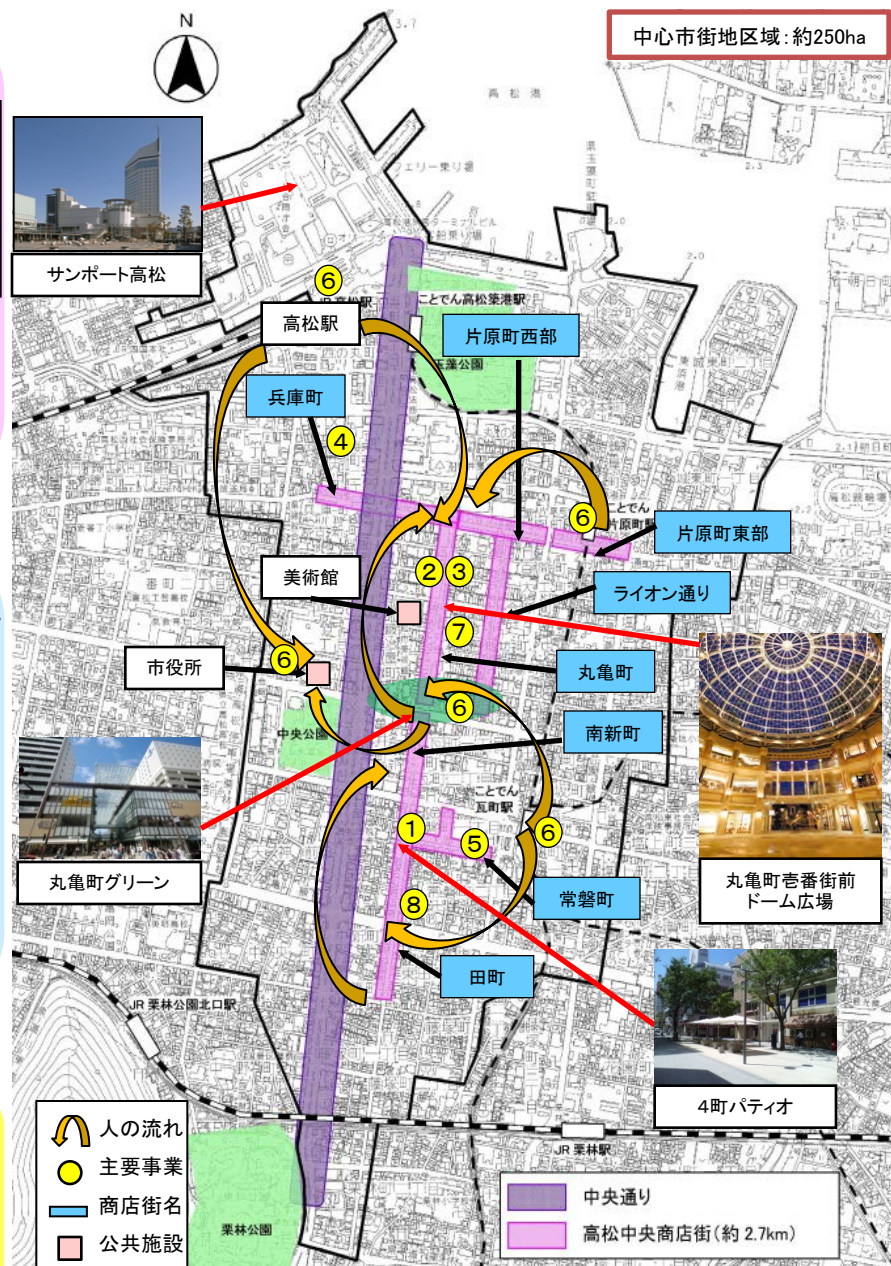
- ①高松南部商店街活性化事業(再掲)
- ③商店街情報発信事業(再掲)

## 中心市街地に、より住みやすい環境をつくる

- ⑧高松中央商店街南部3町共同住宅供給事業  
常磐町、南新町、田町の各商店街にある**空き店舗のうち、上層部分を活用して、アパート等の共同住宅施設**を設置
- ⑦総合生鮮市場事業(再掲)



共同住宅供給事業のイメージ図



その他中心市街地全般に関する事業41事業